

未来投資会議 構造改革徹底推進会合 「医療・介護—生活者の暮らしを豊かに」会合	資料 4－1
平成28年12月7日（第4回）	

未来投資会議
構造改革徹底推進会合
「医療・介護—生活者の暮らしを豊かに」会合
平成28年12月7日（第4回）

内閣官房 健康・医療戦略室

次世代医療ICT基盤の構築
—次世代医療ICT基盤協議会の議論の状況—

健康・医療戦略関係の推進体制

健康・医療戦略推進本部

本部長：内閣総理大臣
 副本部長：内閣官房長官及び健康・医療戦略担当大臣
 本部員：その他国務大臣

健康・医療戦略推進会議

議長：健康・医療戦略担当大臣
 議長代行：健康・医療戦略担当大臣を補佐する内閣府副大臣
 副議長：健康・医療戦略担当大臣を補佐する内閣府大臣政務官及び
 内閣総理大臣補佐官（健康・医療戦略室長）
 構成員：関係府省局長クラス

医療分野の研究
 開発関連予算の
 総合的な予算要
 求配分調整等

研究
開発

創薬支援ネットワーク協議会

次世代医療機器開発推進協議会

ゲノム医療実現推進協議会

連携

ICT

次世代医療ICT基盤協議会

※健康・医療戦略室とIT総合戦略室による共同事務局

デジタル臨床基盤
 としての利活用

市場
開拓

次世代ヘルスケア産業協議会

※健康・医療戦略室と経産省による共同事務局

医療国際展開タスクフォース

アジア健康構想ワーキンググループ （アジア健康構想推進会議）

新技術

健康・医療戦略ファンドタスクフォース

国立研究開発
 法人日本医療
 研究開発機構
 （AMED: Japan
 Agency for Medical
 research and
Development）

所管 内閣府／文科省／
 厚労省／経産省

次世代医療 I C T 基盤協議会



○ 議長： 和泉 洋人 内閣官房健康・医療戦略室長(総理補佐官)

○ 構成メンバー：(五十音順)

飯塚 悦功(東京大学名誉教授)

大江 和彦(東京大学医療情報学分野教授)

金子 郁容(慶應義塾大学SFC研究所主席所員)

菊地 眞((公財)医療機器センター理事長)

楠岡 英雄((独)国立病院機構理事長)

喜連川 優(国立情報学研究所所長、東京大学生産技術
研究所教授)

近藤 達也((独)医薬品医療機器総合機構理事長)

堺 常雄(日本病院会会長)

神成 淳司(慶應義塾大学環境情報学部兼医学部准教授)

末松 誠(国立研究開発法人日本医療研究開発機構
(AMED)理事長)

田中 紘一((一社)国際フロンティアメディカルサポート理事)

中釜 齊(国立研究開発法人国立がん研究センター理事長)

永井 良三(自治医科大学長)

樋口 範雄(東京大学大学院法学政治学研究科教授)

福井 次矢(聖路加国際大学学長)

堀 憲郎(日本歯科医師会会長)

松本 純夫((独)国立病院機構東京医療センター名誉院長)

矢作 尚久(国立研究開発法人国立成育医療研究センター臨
床研究開発センターデータ科学室室長代理)

山崎 學(日本精神科病院協会会長)

山本 修一(国立大学附属病院長会議常置委員長)

山本 信夫(日本薬剤師会会長)

山本 隆一((一財)医療情報システム開発センター理事長)

横倉 義武(日本医師会会長)

吉原 博幸(京都大学名誉教授・宮崎大学名誉教授
(特別教授))

○ 関係府省：

内閣官房内閣審議官(内閣官房副長官補付)

内閣官房情報通信技術(IT)総合戦略室長代理(副政府CIO)

総務省政策統括官(情報通信担当)

文部科学省研究振興局長

厚生労働省大臣官房技術総括審議官

厚生労働省保険局長

厚生労働省政策統括官(社会保障担当)

農林水産省食料産業局長

経済産業省商務情報政策局長

財務省主計局(オブザーバ)

(一社)MEJ(オブザーバ)

次世代医療ICT基盤協議会 (医療≡医療・介護・健康)

問題意識

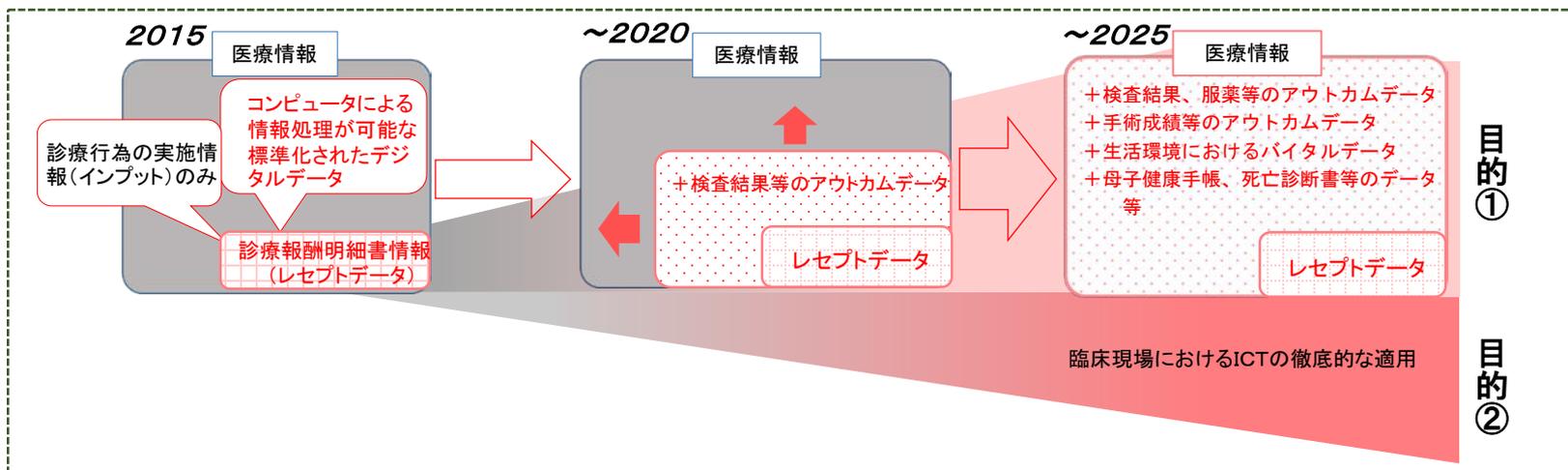
- 医療分野の高度化と効率化の両立による社会保障給付費の適正化は喫緊の課題。同時に世界最先端の臨床研究基盤を構築し、新しい医療技術・医薬品等を国内外の市場に展開する成長戦略的視点も重要。これらの両立には、臨床現場の徹底的かつ戦略的なデジタル化とともに、生成デジタルデータの戦略的利活用が不可欠。
- 現在、全国規模で利活用が可能な標準化されたデジタルデータは、診療行為の実施情報(インプット)である診療報酬明細書(レセプト)データが基本。診療行為の実施結果(アウトカム)に関する標準化されたデジタルデータを利活用することは、世界的にも重要な課題。(アウトカム=検査結果、服薬情報等)

目的

- ①【医療ICT基盤の構築】 アウトカムを含む標準化されたデジタルデータ(以下データ)の収集と利活用を円滑に行う全国規模の仕組みの構築。
- ②【次世代医療ICT化推進】 臨床におけるICTの徹底的な適用による高度で効率的な次世代医療の実現と国際標準の獲得。

効果

- 世界最先端の医療行政・医療サービスの実現。医療の状況の正確で精密な把握や遠隔医療による医療資源の偏在の克服等。
- 世界最先端の臨床研究基盤の実現。(独)日本医療研究開発機構と車の両輪で新しい医療技術・医薬品・医療機器の開発が加速。
- 【医療行政・医療サービス】
 - 医療資源の偏在(時間・距離)を克服した全国均一の高度で質の高い診療の実現
 - 科学的な根拠に基づく最適な治療の保険収載
 - 疾病の発生に即応した先制的な行政
- 【臨床研究／コホート研究】
 - 医薬品、再生医療 等、医療技術の開発促進(臨床研究の設計・実施の精密化、大規模化効率化、信頼性向上)
 - 効果的な治療方法の発見や科学的選定。個別化医療の実現。科学的根拠のあるヘルスケアサービスの振興
- 【新技術／新産業創出】
 - 個人のヘルスケアデータを管理・運営するサービス等の新産業創出／新しい医療技術や科学的発見



医療分野における代理機関(仮称)制度に関する検討状況

これまでの経緯

2014年3月 健康・医療戦略推進本部の下に、次世代医療 I C Tタスクフォースを設置し、次世代型の高度な医療機器、病院システムの開発・実装促進や、臨床研究基盤の強化に資するデータ利活用の高度化などを推進するための議論を開始

2014年7月 次世代医療 I C Tタスクフォース「中間とりまとめ」

2015年1月 次世代医療 I C Tタスクフォースに、関係医療団体、学会、産業界等を加えた「次世代医療 I C T基盤協議会（以下「協議会」）」へ発展的に改組

以後、代理機関（仮称）について、情報通信技術（I T）の利活用に関する制度整備検討会、次世代医療ICT基盤協議会医療情報取扱制度調整ワーキンググループにおいて検討

今後の予定

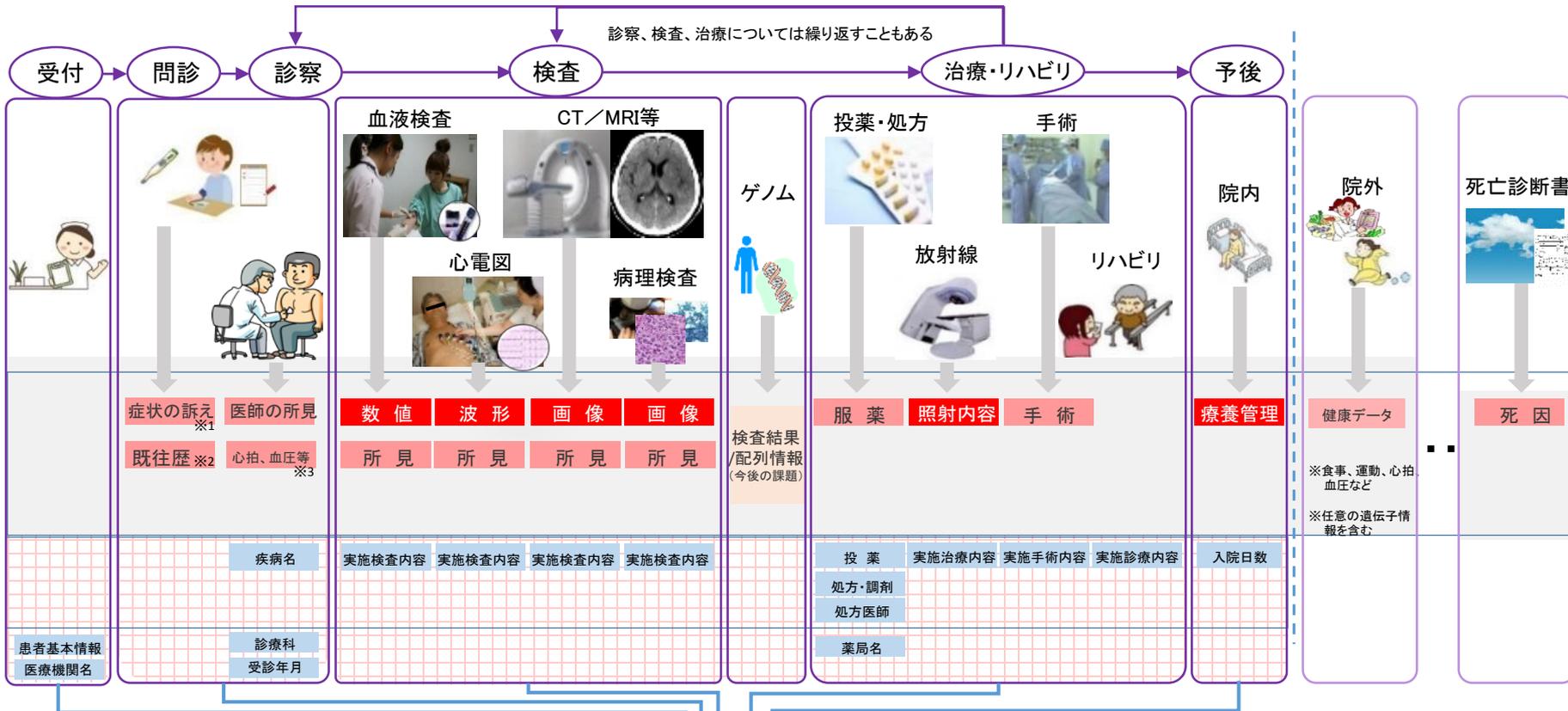
2016年内に次世代医療 I C T基盤協議会を開催し、その後制度案に関するパブリックコメントを行う
2017年通常国会へ法案提出を目指す

医療情報収集の現状と課題

○診療報酬明細書情報(レセプト:検査項目、投薬内容、手術処置の種類等(下記の青囲み部分))は一元的に集約されるなど利用が進んでいる。

○問診内容、検査結果、治療予後等の収集や利活用が課題。病院や診療所を跨る情報の収集も重要課題。

診察、検査、治療については繰り返すこともある



医事会計システム

診療報酬明細書
(レセプト)

患者の基本情報
受診医療機関名
診療科
処方医師名、薬局
診断された疾病名
その月の入院日数、外来受診回数
実施した診療内容 ※4
その月の請求点数

	デジタル	標準化
青	○	○
赤	○	△
ピンク	△	×

- ※1 症状の訴え
頭痛、めまい、肩こり等の患者の自覚症状 等
- ※2 既往歴
これまでにかかった病気、手術歴、輸血歴、アレルギーの有無 等
- ※3 心拍、血圧等
心拍、血圧、体温、呼吸数 等
- ※4 実施した診療の内容
検査、処置、投薬、手術、リハビリ、放射線治療、在宅 等

次世代医療ICT基盤構築に向けた現状の俯瞰

※提案公募形式の事業に関しては未掲載

持続可能な質の高い保険医療(社会保障)

新しい医療技術の創出

健康産業の振興

医療行政/医療サービス

臨床研究、コホート研究

保険外のヘルスケアサービス

医療情報の取り扱いルール/仕組み

第3層

医療データの収集・利活用目的(費用負担者)



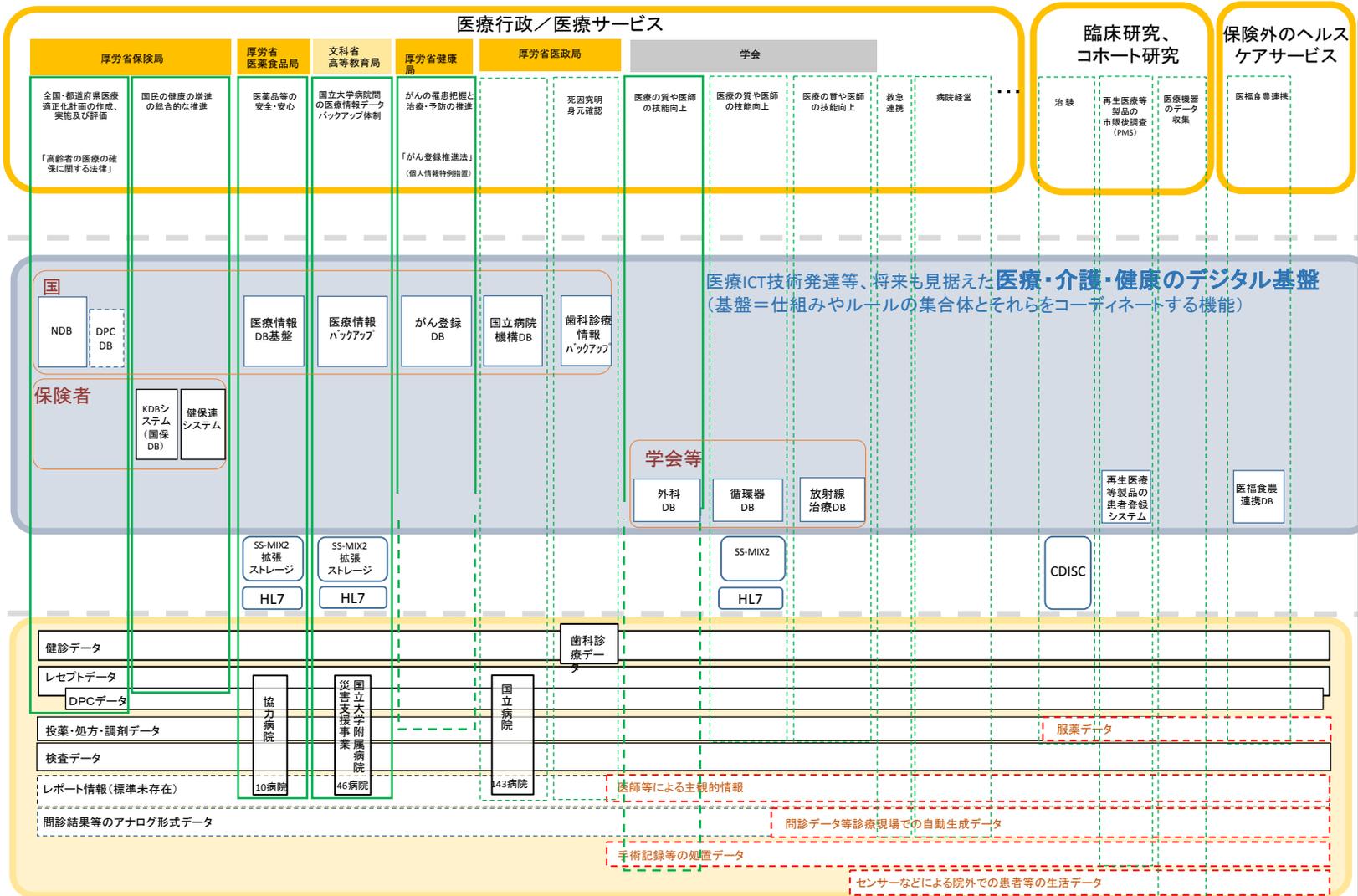
第2層

医療データの収集・利活用の仕組み



第1層

医療現場のデジタル化



医療・健康情報の円滑な流通を促進する仕組み(医療情報の取扱いルール等)

医療ID制度の整備(正確で効率的な医療情報の突合)

医療・介護関係事業者における個人情報取扱いの適切な取扱い

医療情報を受託する情報処理事業者向け

ASP・SaaSにおける情報セキュリティ対策

ASP・SaaS事業者が医療情報を取り扱う際の安全管理

医療情報システムの安全管理

レセプト情報・特定健診等情報の提供

— 現在、デジタル形式で収集・利活用が行われている事業
 - - - 今後、デジタル形式で収集、利活用が行われることが期待される事業等

--- = 収集、利活用には、デジタルデータとしての取得の推進やデータの標準化が必要

疾病を予防する生活・社会環境
個別のニーズを満たす低コストの医療

最初の目に見える成果の確保

- 俯瞰的データに基づく
- ・医療行政(保険含む)
- ・都道府県医療計画の策定等

新興国等への展開・標準の獲得

- データに基づく医療機関の診療・経営分析
- エビデンスベースの診断・治療支援の実装

医療界の行動変容をベースにした医療機器産業政策

- 開発ニーズの把握
- 治験、開発の効率化

日本の医薬品企業の行動変容or
外資系への研究開発環境の提供

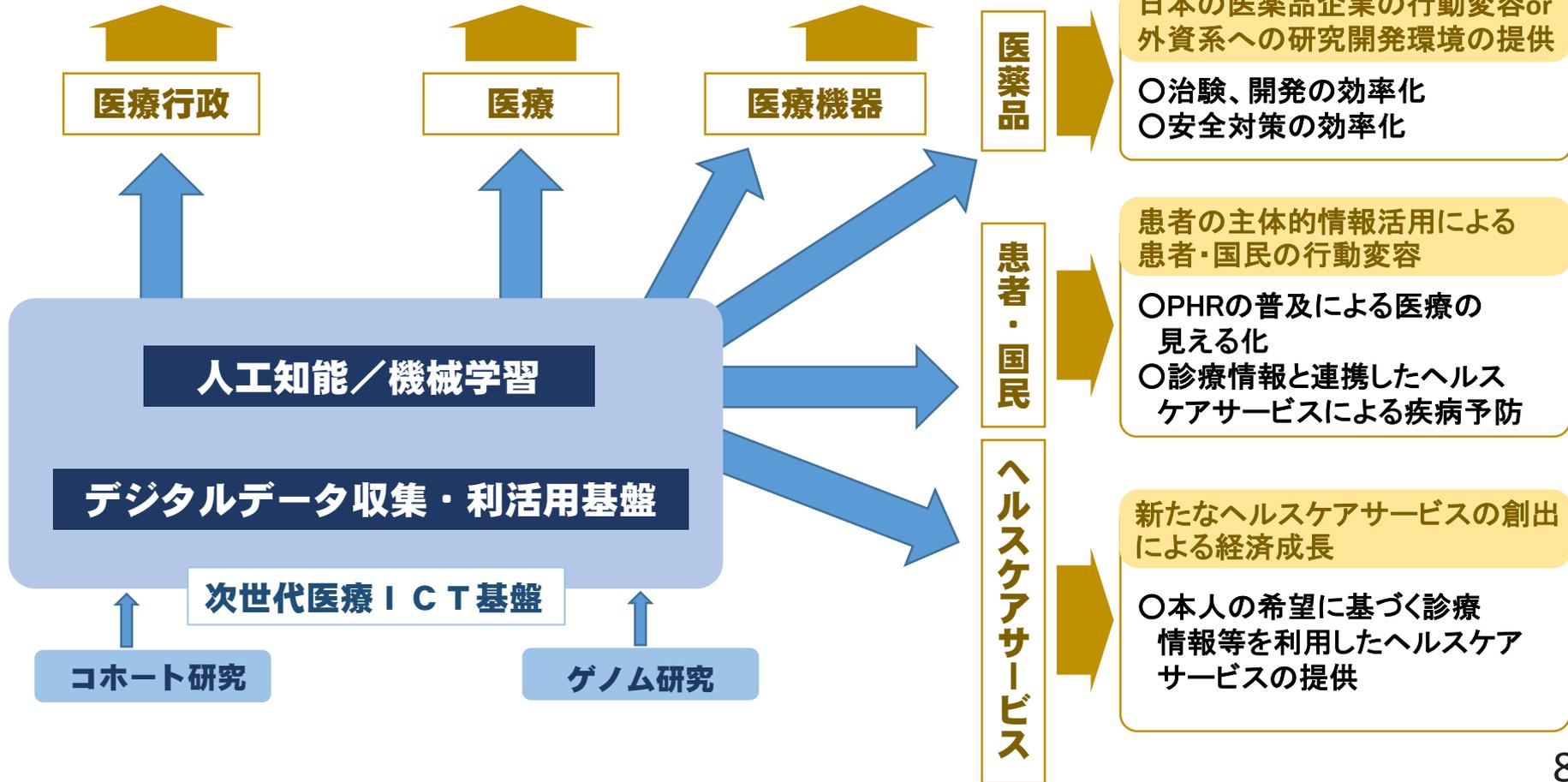
- 治験、開発の効率化
- 安全対策の効率化

患者の主体的情報活用による
患者・国民の行動変容

- PHRの普及による医療の見える化
- 診療情報と連携したヘルスケアサービスによる疾病予防

新たなヘルスケアサービスの創出
による経済成長

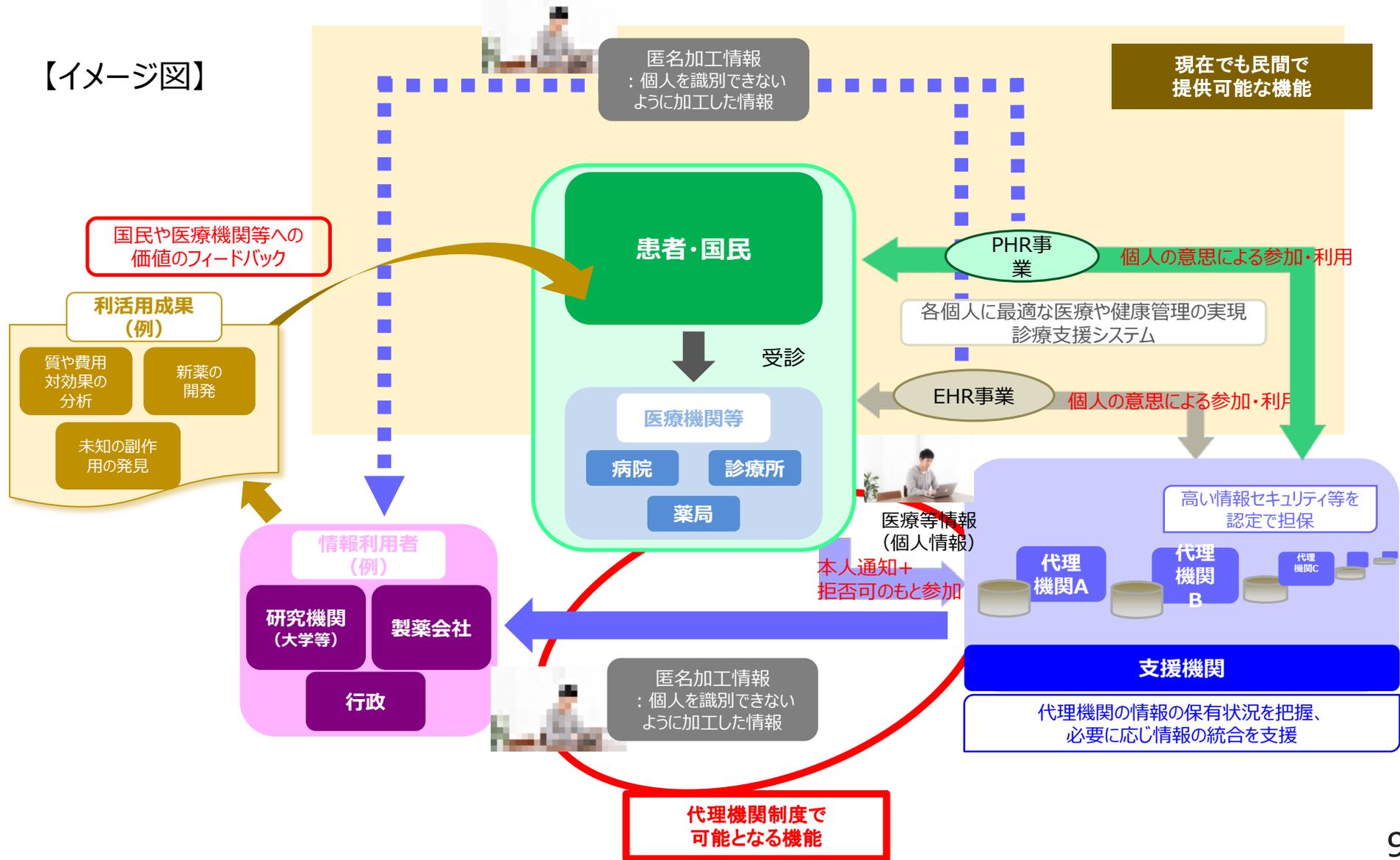
- 本人の希望に基づく診療情報等を利用したヘルスケアサービスの提供



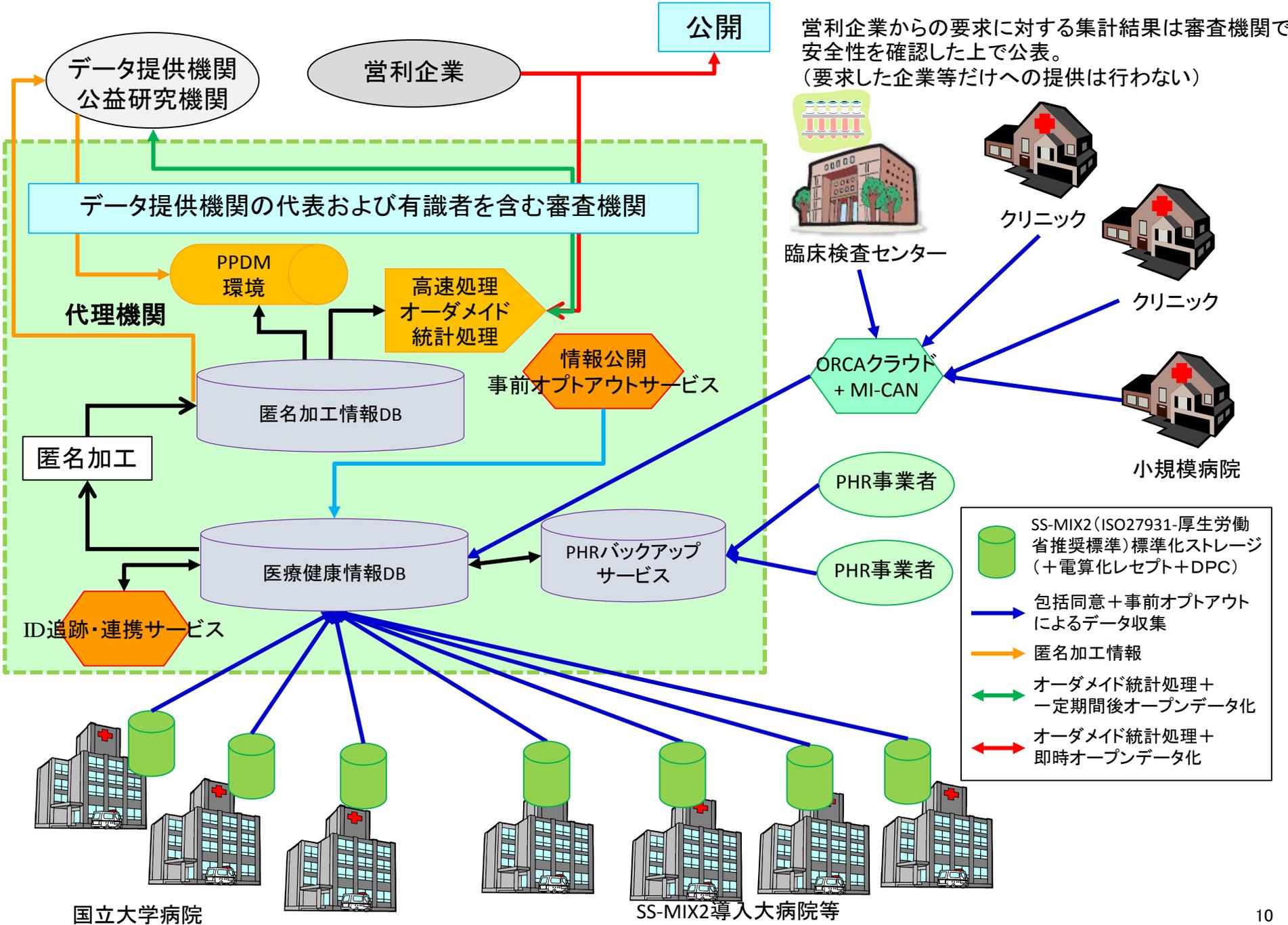
代理機関(仮称)制度のイメージ

○個人の権利利益の保護に配慮しつつ、医療等情報を安心して円滑に利活用することができる仕組みを整備し、医療の質の向上や新薬の開発等の実現に寄与する。

【イメージ図】

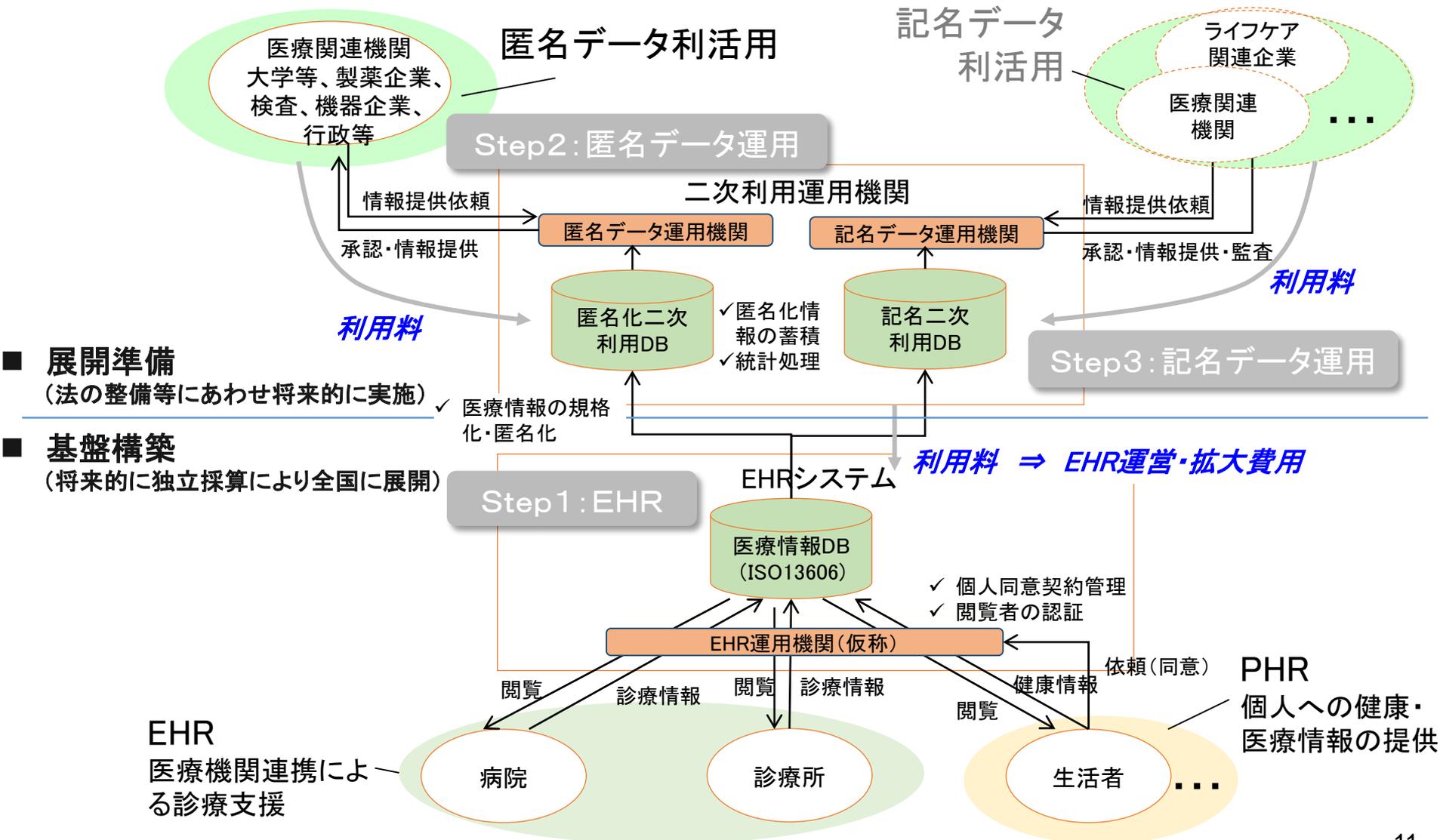


SS-MIX2 を基礎とした大規模診療データの収集と利活用に関する研究事業の概要

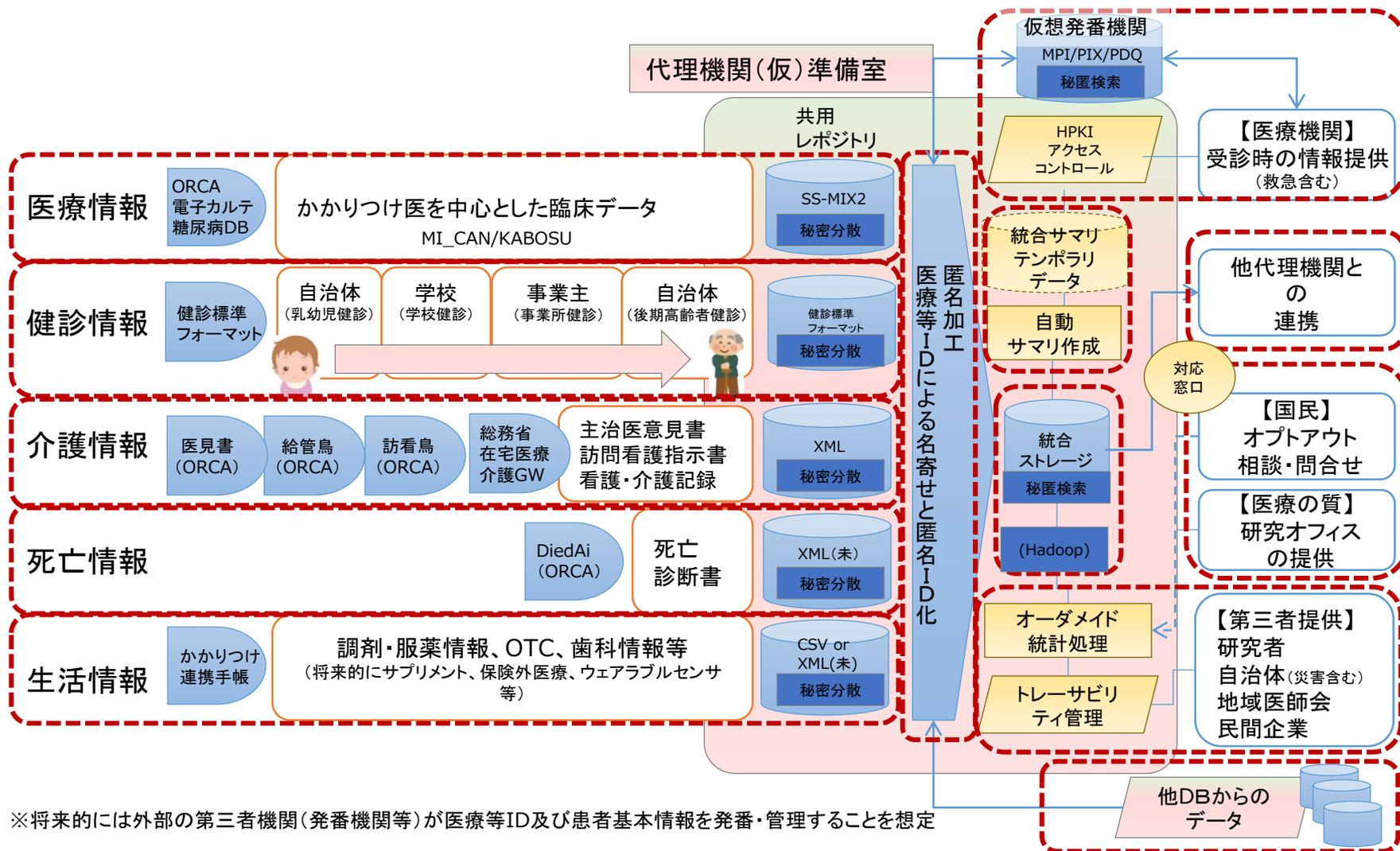


全国共同利用型国際標準化健康・医療情報の収集及び利活用に関する研究概要

AMEDの採択を受け、持続的な大規模DBの実現と活発な医療情報の利活用を目指し医療情報の収集と利活用に関する研究を進めています。



SS-MIX2規格の診療情報を中心とした生涯保健情報統合基盤の構築と利活用に関する研究概要



※将来的には外部の第三者機関(発番機関等)が医療等ID及び患者基本情報を発番・管理することを想定

収集情報の拡大の効果

— 治療予後等まで収集した医療情報の利活用で実現する世界 —

効果①

医療サービス
医療行政

- 科学的根拠に基づく最適な治療の選択(最先端の診療支援情報の提供)
- 医療資源の偏在を克服し、全国均一の質の高い医療の実現
- 効果的で質の高い遠隔/在宅医療や専門医診断の提供
- 疾病発生に即応した先制的な行政

効果②

新技術/臨床研究
疫学研究
人工知能等

- 医薬品、再生医療等開発促進(臨床研究の設計・実施の精密化、大規模化、効率化、信頼性向上)
- 効果的治療方法の発見、科学的根拠のある健康サービスの振興
- コンピュータによる診断、手術支援等

効果③

新産業/個人の為の
健康サービス等

- 科学的根拠に基づく各個人に最適な健康管理の実現
- 検査データ等個人の意志で自身の医療データを適切な費用負担で預けられるサービス

実線≡記名情報
点線≡匿名情報

